

ドローンを活用した新事業進出で ドライバーの賃金アップを図る

課題

運送業界の若手定着と 就労者個人のスキル向上

岩手県内エリアを中心に、冷凍食品・チルド食品、生鮮食品をスーパーの物流拠点や地元スーパーなどに配送するトラック運送大手の株式会社本宮運輸。社員74人、保有トラック台数50台、2018年の売上高は6億6000円超を誇るが、価格競争の激化、燃料費の高騰、深刻なドライバー不足など、経営環境は厳しさを増している。

トラック業界の原価は、人件費と燃料費で約70%を占めるが、燃料の値上り分を価格に転嫁することは難しい。サービス内容での差別化は難しく、コストダウンには人件費を削減するしかないのが実情だが、ドライバー確保が困難な現状では、安易な削減は避けなければならない。

また、ドライバーの給与は、保有する免許の種類（準中型、中型、大型の3種類）によって差が出るが、給与の高い中型、大型免許取得のための助成制度はあるものの、まだ保有していない若手に収入格差があった。

価格競争を勝ち抜くと同時に、雇用の安定のため若手の賃金アップを図りたい同社は、新規事業への参入を検討することとなった。

支援

ドローン事業への参画を 経営革新計画でサポート

グループ企業の真柴商工会がドローン操縦士育成スクールを運営していることから、同社ではドローンの活用に着目。高齢化が進む県内農家の省力化のニーズに応えるため、ドローンによる農薬散布事業への参入を決めた。

若手ドライバーにドローンの操縦士資格を取得してもらい、閑散期などに農薬散布事業に従事してもらうことで賃金アップと雇用の安定化を図ろうという構想だ。

そこで金ヶ崎町商工会では、岩手県経営革新計画の活用を提案。専門家派遣による相談指導などの支援を実施し、申請をサポート。承認が決まると、地元紙に記事が掲載されたのを機に、同社の農薬散布事業は一気に認知度が上がった。小さな区画や住宅地の圃場などに安価で散布が行えることから、早速、個人農家や農業法人などから依頼が寄せられたほか、ヘリコプター農薬散布業者から繁忙期の協力依頼も受けた。



ドローンによる農薬散布

同社では農薬散布でドローンの事業展開のベースを構築し、今後は農薬散布以外にも赤外線カメラ搭載ドローンによる建物や太陽光パネルなどの設備点検、地形調査や測量、自治体のハザードマップ制作などへの展開を計画している。すでに自治体や大手企業からの打診を受けて、順調な滑り出しを見せている。

同社では、2019年4月までに若手を中心に10人以上の従業員がドローン操縦士の免許を取得。今後の採用にも好影響をもたらすことが期待される。

支援の経過

期間	支援内容
2018年9月～ 2019年1月	経営革新計画の策定支援（承認）
2019年3月～ 5月	ものづくり補助金の申請・実行支援
2019年度	先端設備導入計画の策定支援

会社概要

会社名：株式会社本宮運輸
住所：岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原下二の町210
電話番号：0197-43-3388
URL：<http://motomiya.co.jp/>
代表者名：代表取締役 菅谷忠寿
創業年：1975年
従業員数：74名
商工会名・担当者名：金ヶ崎町商工会・臼井浩之